

2006年集計における沖縄県のがん罹患状況について

賀数保明・桑江なおみ

Epidemiology State of Cancer Disease Registered in Okinawa Prefecture in 2006

Yasuaki KAKAZU and Naomi KUWAE

要旨：沖縄県のがん登録事業は、各関係医療機関、医師会、大学病院等の協力を得て、沖縄県が1988年より行っており、2009年は事業実施の22年目となる。今回、2006年のがん罹患等についてデータを集計し、全国の状況との比較検討を行った。全部位では、男女とも年齢調整罹患率、死亡率、年齢階級別罹患率、死亡率等で沖縄県は概ね全国を下回った。

Key words：がん登録票、死亡票、DCO/I、罹患割合、年齢調整罹患率、死亡率、年齢階級別罹患率、沖縄県

I はじめに

沖縄県の悪性新生物による死亡は、逐年増加の一途をたどり、全国に先駆けて1977年から死亡順位の第一位を占め、2009年の死亡数は2,643人、総死亡数に占める割合は26.6%となっている。このような現状に鑑み、沖縄県では「がん登録事業」を1988年から実施している。この事業は、県内におけるがんの罹患状況、受療状況、生存状況等の集計を行い、その実態を把握し予防対策を講じることを目的としている。さらに県は、がん対策基本法に基づき、国のがん対策推進基本計画を基本に「沖縄県がん対策推進計画」(2008年度～2012年度)を策定し、がん対策を総合的・計画的に推進していくこととしている。

II 方法

がん登録事業は、沖縄県が実施主体となっており、実際のがん登録事業は衛生環境研究所が行っている。登録の対象は、沖縄県居住者で、悪性新生物、上皮内癌、性状不詳の新生物のいずれかの疾患と診断され、またはそれらにより死亡した者となっている。脳腫瘍については、良性腫瘍も登録対象である。また、がんは確定診断までに長期を要するため、3年遡って罹患集計を行っている。

がん登録票及び死亡票は、医療機関届出と出張採録により収集をしている。また、全国の値については、国立がん研究センターがん対策情報センターのWEB上で公開されているデータを使用した。

III 結果および考察

1. 登録票、死亡票の年次推移

ここ数年、がん登録票と死亡票を合わせて年間概ね4,000件～6,000件前後が登録されている。2009年の、がん登録票は1,058件、死亡票は307件であった⁴⁾(表1)。前年よ

り大きく減少した理由として、出張採録の中止があげられる。

2. がん罹患数、DCO等の年次推移

新たになんと診断された患者及びがん罹患しなくなった人(がん罹患数)は、1999年以降毎年3,000件以上登録されており、2006年では3,652件登録されている⁴⁾。DCO/Iは48.9%で、前年よりDCOの割合が増えた⁴⁾(表2)。

3. 性別、部位別罹患割合について

(1) 沖縄県2006年部位別罹患割合等

沖縄県の2006年の罹患数3,652件の内、男性は2,073件、女性は1,579件であった⁴⁾。部位別罹患割合は、男性1位は気管支・肺がん(24.0%)、2位大腸がん(18.9%)、3位胃がん(12.5%)で、女性1位は乳がん(19.0%)、2位大腸がん(16.7%)、3位が気管支・肺がん(14.4%)であった⁴⁾(図1)。

(2) 全国の部位別罹患割合

全国は、男性1位は胃がん(19.8%)、2位大腸がん(15.3%)、3位気管支・肺がん(15.0%)で、女性1位は乳がん(18.3%)、2位大腸がん(14.9%)、3位胃がん(13.0%)であった²⁾³⁾(図1)。

4. 年齢階級別罹患率(全部位)

年齢階級別罹患率(全部位)は、沖縄県では、全国と比較して低めに推移している(図2)。

5. 年齢調整罹患率の各部位別比較

沖縄県では全国と比較して、男女の胃がんと、肝がんで顕著に低い値を示した。男女の白血病については、沖縄県が全国を上回る値を示した。男女の肺がん、男性口腔・咽頭がんについては、全国値に近い値を示した²⁾³⁾⁴⁾(図3)。

6. 主要部位における年齢調整罹患率²⁾⁴⁾、年齢調整死亡率¹⁾³⁾、年齢階級別罹患率²⁾⁴⁾、年齢階級別死亡率¹⁾³⁾

(1) 全部位

表 1. 沖縄県におけるがん登録票及び死亡票の収集件数の推移.

	がん登録票 件数	内 訳		死亡票
		医療機関届出	出張採録他	
昭和63年	313	313	0	0
平成元年	873	448	425	0
平成 2年	956	497	459	0
平成 3年	4,007	193	3,814	0
平成 4年	1,602	1,112	490	0
平成 5年	1,292	930	362	0
平成 6年	2,757	2,011	746	0
平成 7年	1,907	631	1,276	2,405
平成 8年	2,956	950	2,006	3,220
平成 9年	3,337	1,206	2,131	3,798
平成10年	2,280	740	1,540	1,995
平成11年	2,230	772	1,458	0
平成12年	1,240	730	510	7,011
平成13年	2,811	614	2,197	331
平成14年	1,331	655	676	0
平成15年	3,027	811	2,216	2,548
平成16年	3,002	1,004	1,998	3,943
平成17年	3,365	1,750	1,615	2,686
平成18年	3,312	2,025	1,287	2,435
平成19年	2,389	2,050	339	2,333
平成20年	3,300	2,269	1,031	2,458
平成21年	1,058	1,058	0	307

表 2. 縄県におけるがん罹患数及び届出精度の年次推移.

	悪性新生物			届出精度	
	罹患数 (I)	DCO	死亡数 (D)	DCO/I (%)	I/D
1988年	2,268	0	1,356	0.0	1.67
1989年	2,413	646	1,423	26.8	1.70
1990年	2,444	667	1,551	27.3	1.58
1991年	2,947	724	1,557	24.6	1.89
1992年	3,040	804	1,745	26.4	1.74
1993年	3,148	880	1,742	28.0	1.81
1994年	3,212	1,036	1,777	32.3	1.81
1995年	3,169	977	1,943	30.8	1.63
1996年	3,177	1,222	2,026	38.5	1.57
1997年	2,851	1,311	2,028	46.0	1.41
1998年	2,952	1,390	2,134	47.1	1.38
1999年	3,055	1,415	2,101	46.3	1.45
2000年	3,458	1,415	2,194	40.9	1.58
2001年	3,354	1,319	2,275	39.3	1.47
2002年	3,996	1,436	2,411	35.9	1.66
2003年	4,034	1,353	2,325	33.5	1.74
2004年	3,876	1,459	2,516	37.6	1.54
2005年	4,028	1,598	2,516	39.7	1.60
2006年	3,652	1,785	2,522	48.9	1.45

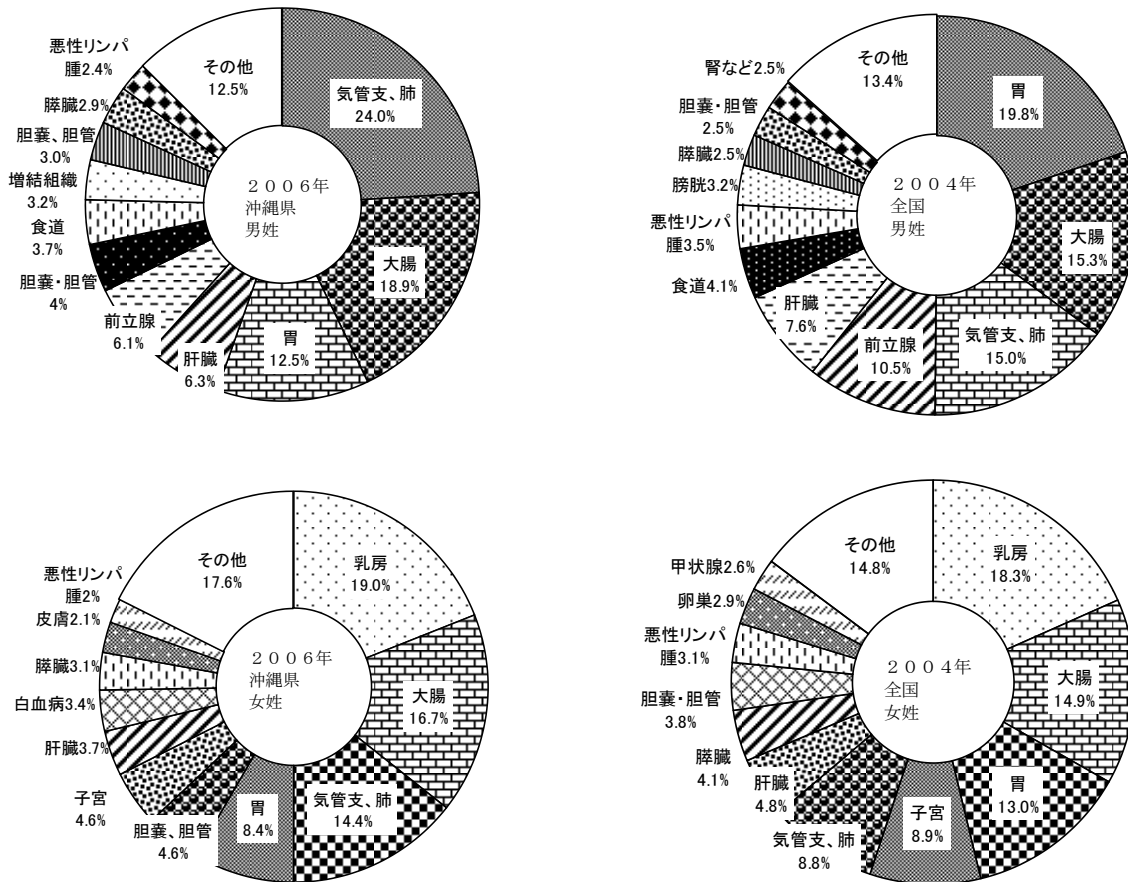


図 1. 部位別, 男女別罹患割合, 沖縄県は 2006 年, 全国は 2004 年.

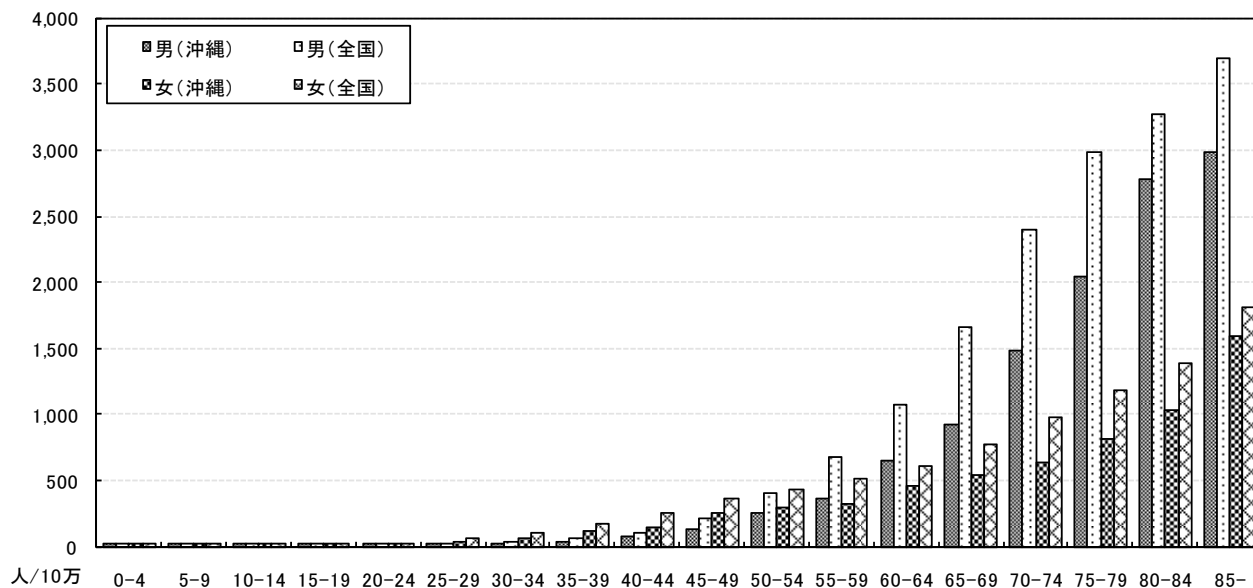


図2. 年齢階級別罹患率全部位の男女別比較, 沖縄県は2004~2006年平均, 全国は2004年.

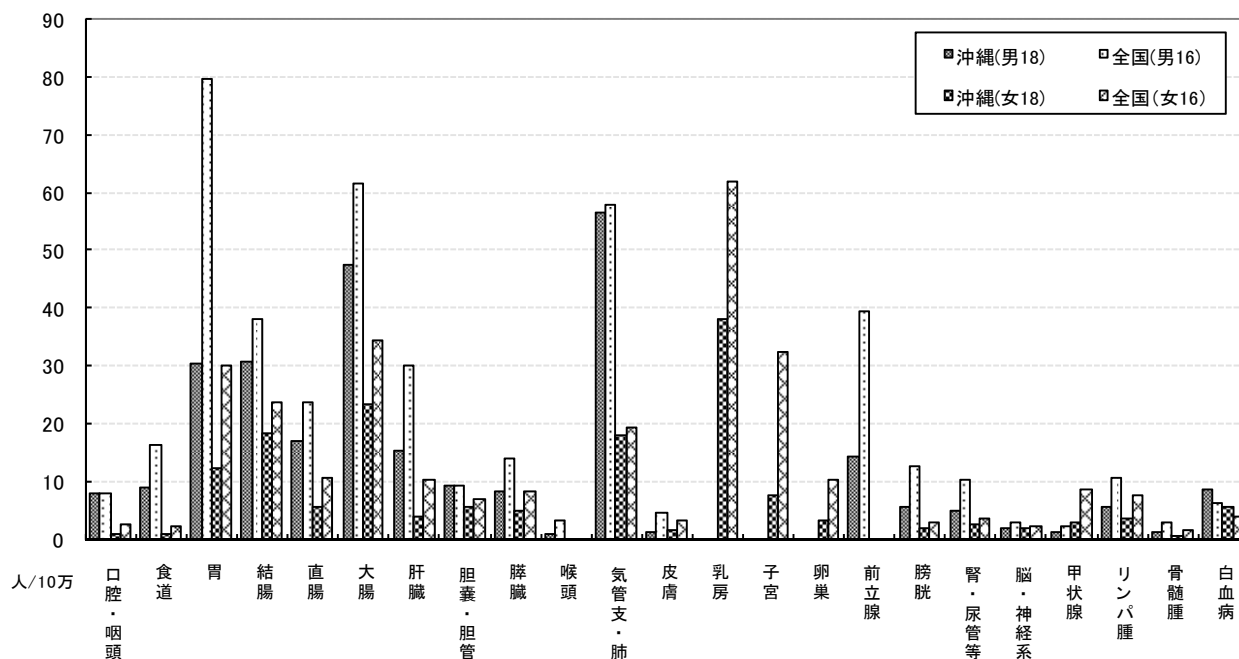


図3. 年齢調整罹患率, 各部位の男女別の比較, 沖縄県は2006年, 全国は2004年.

年齢調整罹患率は, ここ数年はやや減少し, 死亡率年次推移は減少傾向にある. 年齢階級別罹患率は概ね全国を下回る値, 年齢階級別死亡率は一部全国を上回る値があった(図4).

(2) 胃がん

年齢調整罹患率及び死亡率の年次推移は, とともに減少傾向である. 年齢調整罹患率, 死亡率, 年齢階級罹患率, 死亡率について, 全国の値を下回る結果となった(図4).

(3) 肺がん

年齢調整罹患率及び死亡率の年次推移について, 男女ともやや減少傾向である. 年齢階級別罹患率, 死亡率では, 概ね全国より上回る結果となった(図4).

(4) 大腸がん

年齢調整罹患率の年次推移では, 男女とも1998年以降やや増加傾向にある. 死亡率年次推移では, 男性は全国値を上回った. 年齢階級別罹患率では全国値より低い値で推移しているが, 年齢階級別死亡率では罹患率ほどの明確な差異は認められなかった(図4).

(5) 肝臓がん

年齢調整罹患率及び死亡率の年次推移は、男女とも全国より低く推移しているが、男性の罹患率は、近年やや増加傾向。年齢階級別罹患率、死亡率は、概ね全国より下回る結果となった(図4)。

(6) 乳がん

年齢調整罹患率年次推移では、全国よりやや低く推移し、2006年は減少していた。年齢調整死亡率年次推移については概ね横ばい、全国よりやや低い値で推移している。年齢階級別の罹患率では、70代は沖縄県が全国より高い値を示した(図4)。

(7) 子宮がん

年齢調整罹患率年次推移は起伏の大きな曲線を呈し、2006年で大きく減少していた。年齢調整死亡率年次推移は、全国よりやや上回る値で増減している。年齢階級別罹患率では、全国より低い値だが、年齢階級別死亡率では全国を上回る値となった(図4)。

7. まとめ

年齢調整罹患率年次推移では、胃がん、大腸がん、肝臓がん、乳がんは全国より低く推移。肺がんは全国をやや上回る結果となった。乳がんは、全国と同様に増加傾向にあった(平成18年を除く)。年齢調整死亡率年次推移については、胃がん、肺がん、肝臓がんは概ね減少傾向にあった。年齢階級別罹患率比較では、胃がん、大腸がん、肝臓がんにおいて、沖縄県は全国より低い結果となった。年齢階級別死亡率比較では、肺がん、子宮がんは全国より高い値、胃がん、肝臓がんは低い値となった。

沖縄県のがん罹患の状況は、全国と比較して概ね低い水準にあるものの、全国より罹患率の高いもの、あるいは近似した値のもの(乳がん、肺がん)、年齢調整罹患率年次推移で

増加傾向にあるもの(男性肝臓がん)、年齢調整死亡率年次推移で全国の値を上回るもの(子宮がん、男性大腸がん)があり、これらの部位のがん対策等について、重視する必要があると思われる。

また、罹患率では全国より低い値を示したものが、死亡率では上回った事例(子宮がん)があり、精度上の問題で実際の罹患状況との乖離が生じていると推測される。がん登録の精度向上が、今後の課題である。

2010年度からの、がん診療連携拠点病院からのがん罹患登録票の自主的な届出や(出張採録が不要となる2007年がん罹患)、2009年度からの全国標準のシステムを導入し、及びそれを活用することにより、以前より精度の高いがん登録を行い、沖縄県のがん対策、地域のがん検診の精度管理等について寄与して行きたいと考えている。

IV 参考文献

- 1) 沖縄県衛生環境研究所企画情報室(2005)26 ショック！ 沖縄県の平均寿命と死亡状況～平成16年度地域保健推進特別対策事業より～、沖縄県。
- 2) 国立がん研究センターがん対策情報センターがん情報サービス(平成22年10月20日) 1. 死亡データ 2. 罹患データ、東京都。
<<http://ganjoho.ncc.go.jp/professional/statistics/statistics.html>>. 平成22年10月アクセス。
- 3) 厚生労働省大臣官房統計情報部人口動態・保健統計課 人口動態統計年報主要統計表。
<<http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/jinkou/suii05/index.html>>. 平成22年10月アクセス。
- 4) 沖縄県福祉保健部健康増進課・衛生環境研究所(2010年10月)沖縄県がん登録事業報告書(平成18年罹患集計)。

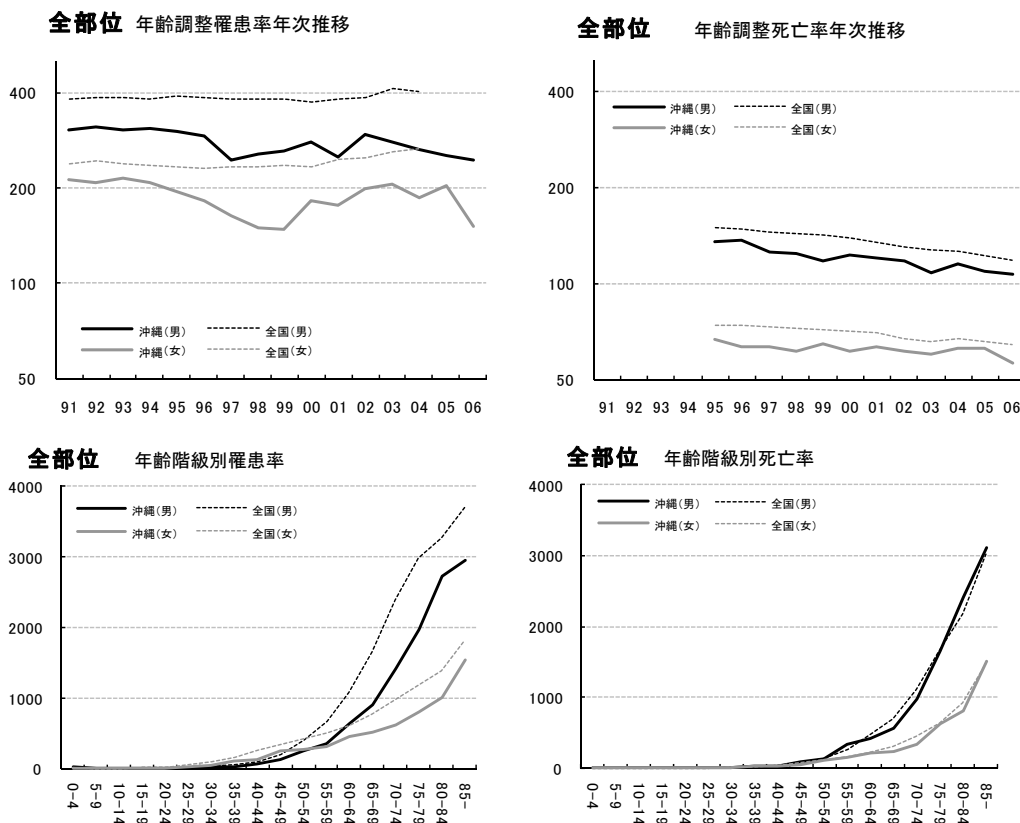


図 4. 全部位

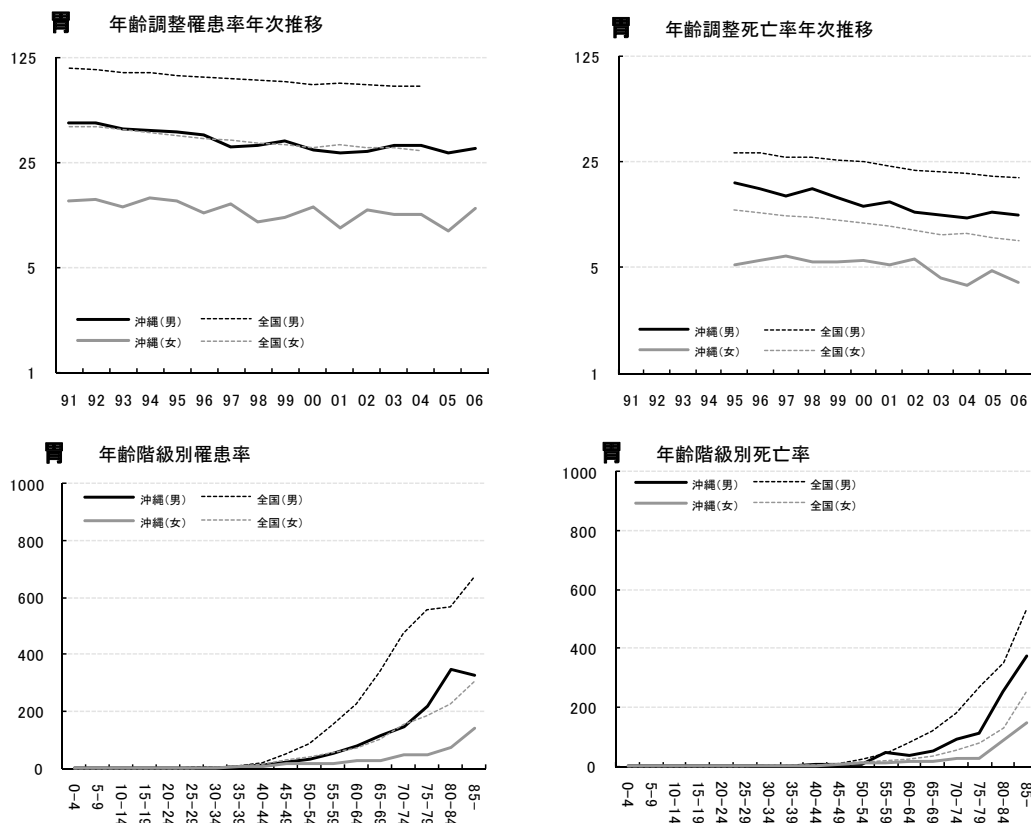


図 4 胃がん

図 4 左上：年齢調整罹患率年次推移，1985 年日本モデル人口。右上：年齢調整死亡率年次推移，1985 年日本モデル人口。左下：年齢階級別罹患率，沖縄県は 2004 年-2006 年平均，全国は 2004 年。右下：年齢階級別死亡率，沖縄県，全国ともに 2006 年。

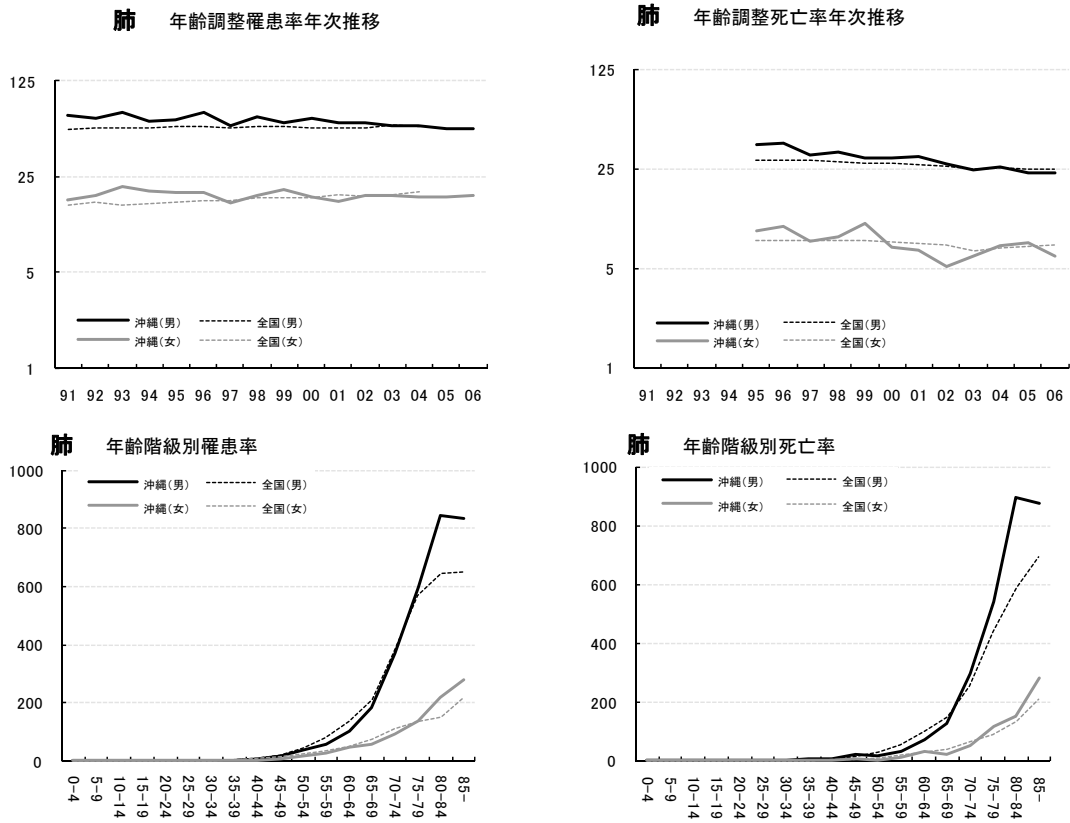


図4. (続き) 気管支・肺がん

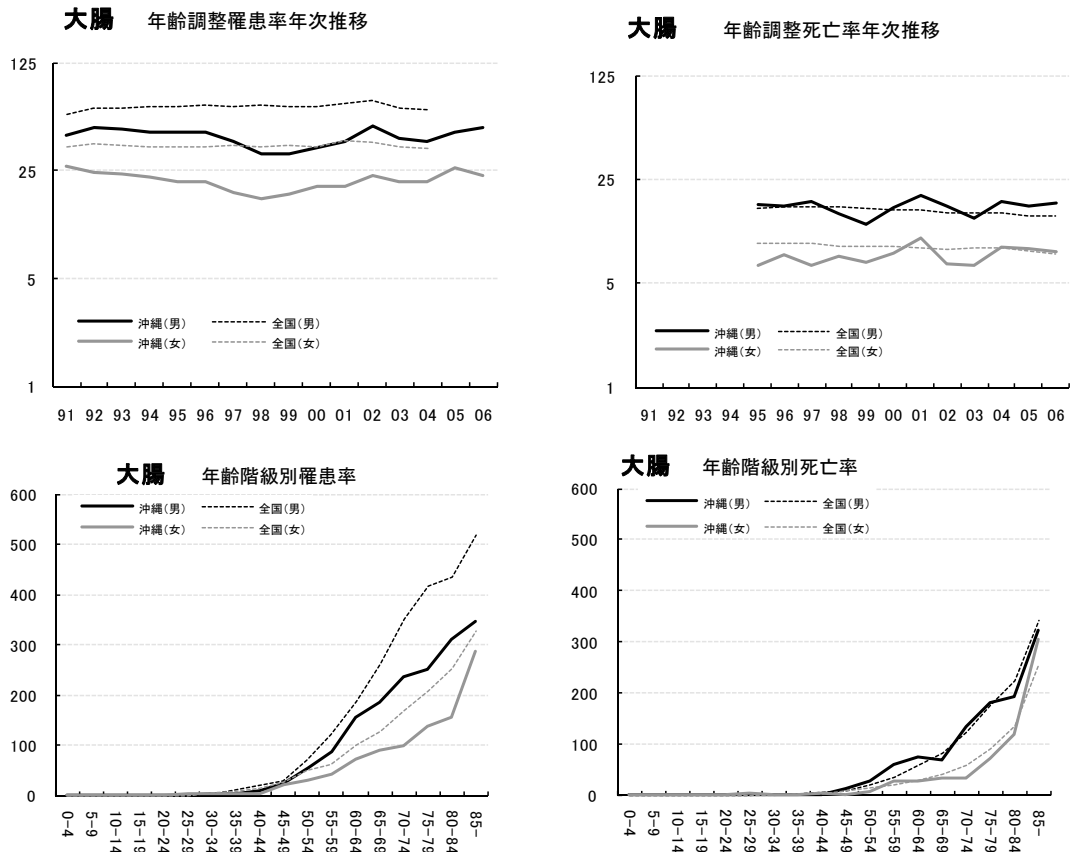


図4 (続き) 大腸がん

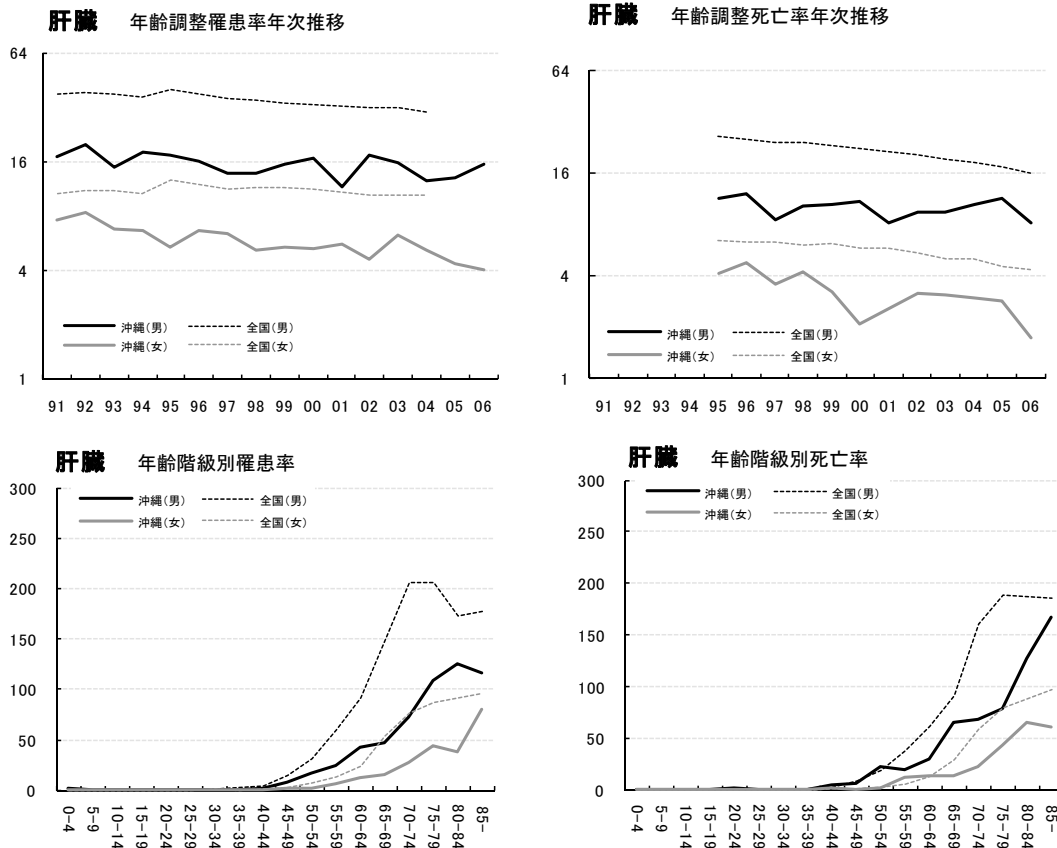


図4. (続き) 肝臓がん

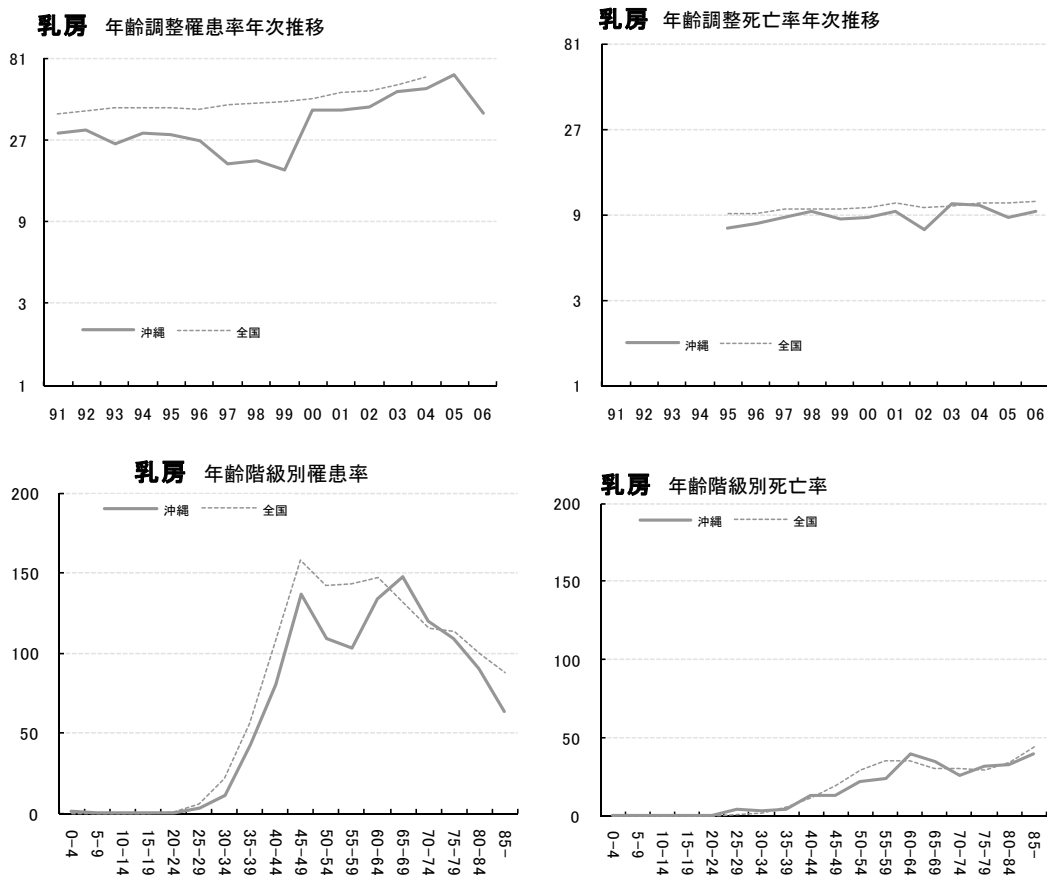


図4. (続き) 乳がん

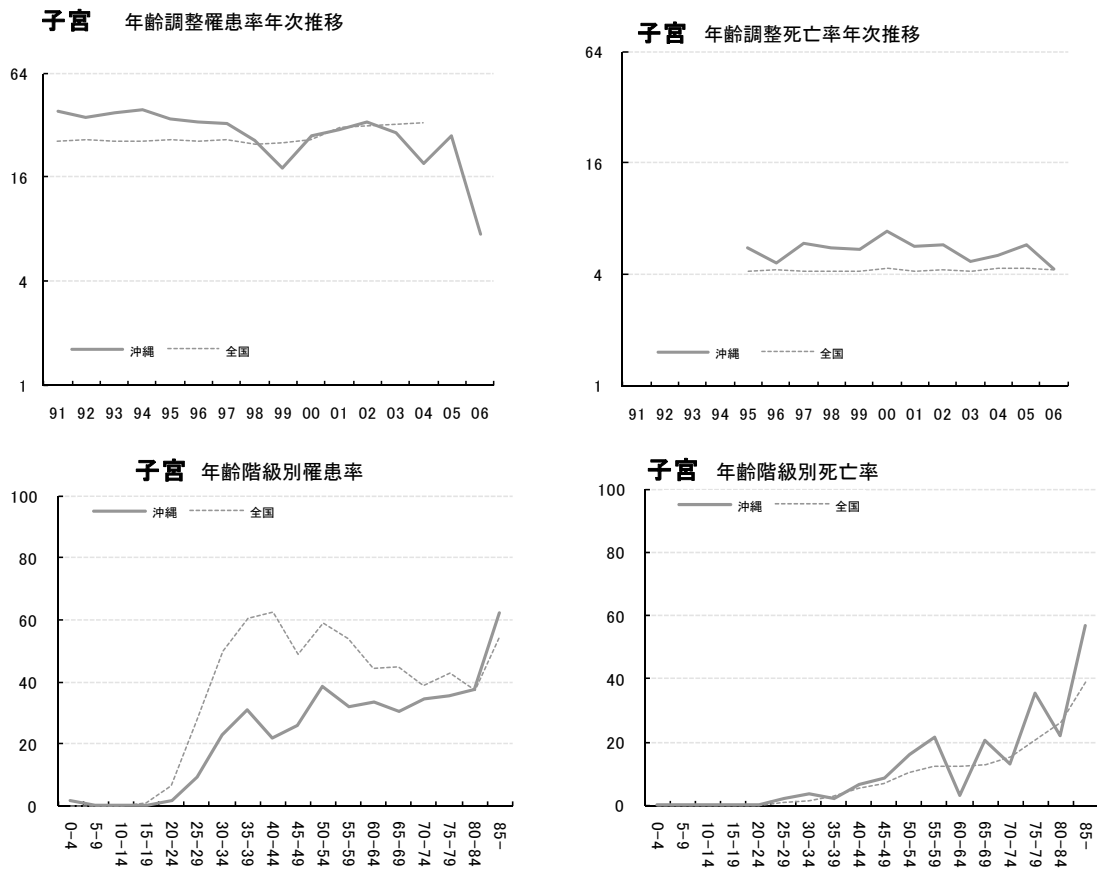


図4. (続き) 子宮がん.